

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成28年度採択分）  
「日本植物病理学会英文誌の国際情報発信を推進強化する取組」  
（課題番号：16HP2013）

学術団体名：日本植物病理学会

学術刊行物の名称：Journal of General Plant Pathology

事業期間：平成28年度～平成32年度

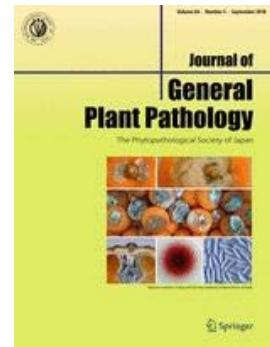
## 1 取組の概要

### ・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

本取組は、植物病理学における国際学術専門誌であるJournal of General Plant Pathology (JGPP)の国際誌としての質、認知度および価値を高めるとともに、我が国の植物病理学の優れた研究成果を広く世界に発信し、植物病理学研究者が国際的に成果報告・議論する場として整備することを目的とする。

### ・応募時に設定した取組の目標・評価指標

- (1) 編集体制の見直しにより、平均出版日数を180日から90日へ短縮する。
- (2) 不正投稿防止システムの利用、国際基準の出版倫理を整備し、国際誌としての信用を担保する。
- (3) 年間投稿論文の総数を国内外共に1.5倍に増加させ、受理論文数における海外著者論文数の割合を増やす。
- (4) 編集委員会の3分の1を占める海外編集委員の積極的な活用により、海外レフェリーによる審査を全査読論文の3分の1以上で実施する。
- (5) 海外レフェリーの積極的登用により掲載論文の国際的学術価値を高め、IF値1.2以上を目指す。
- (6) 韓国、中国、オーストラリアなどのアジア・オセアニア諸国の植物病理学会との組織的な連携を図る。
- (7) Webによる情報発信の強化、国際学会における広報活動、出版社のネットワークを用いた販売促進活動等を活用して、本誌の世界的な認知度を向上させる。
- (8) 年間ダウンロード数を現在の1.5倍、約8万件以上に増加させる。



## 2 目標の達成状況

### ・現在までの目標の達成状況

- (1) 受理通知後から出版（公表）までの迅速化のため、受理論文の英文校閲終了後、出来るだけ早期にDOIを付与し、順次オンライン公開することとした。
- (2) 国際基準の出版倫理を整備するため、不正投稿防止システムの Cross-Check/iThenticateを導入した。
- (3) 申請時の海外著者論文数の割合は76.5% (202/264)であったが、直近1年間では80.3% (204/254)に上昇した。
- (4) 今年度、海外レフェリーによる審査は全査読論文の約16%となっている。
- (5) 2013年から2014年にかけて学会創立100周年記念企画としてJGPPに掲載された総説が多く引用され、IF値は0.966 (2014年) から1.225 (2016年) に上昇した。しかし、2017年はこれらの総説が引用対象外となり、0.7程度に下降した。現在、IF値を回復、向上するための対応を進めている。
- (6) 第4回日韓合同シンポジウム、アジア植物病理学会 (ACPP2017)、国際植物病理学会 (ICPP2018) での本誌のフライヤーを配布するなどの広報活動を実施した。
- (7) PubMed登録のための申請書を作成した。また、PubMed申請に向け、投稿規定の改定を行った。
- (8) 2016年度と2017年度のダウンロード数はそれぞれ58,172件、61,044件となっており、2015年度の48,535件より約1.3倍、1万件以上増加した。



広報活動用に作成したフライヤー

### ・今後の計画

- ・現在活躍中の若手研究者等による総説を掲載することでIF値の上昇を狙う。
- ・投稿規定の和訳版を会員情報ページに掲載し、一斉メールや学会等で広く周知する。
- ・PubMed申請に必要な直近4号分の冊子体が出そろった2019年3月に申請を行う。